

沖合かご漁業開発試験（ミズダコかご漁業開発試験）

（第2県土水産資源調査）

曾田一志・福井克也

1. 研究目的

島根県の漁業者が利用していない資源、漁場を対象に新たなかご漁業を開発し、島根県漁業の生産額を増加させる。前年度に引き続きミズダコかご漁業開発の可能性について調査を行った。

2. 研究方法

試験船明風（41トン）を使用して島根半島と隠岐海域で試験操業を行った。漁具は30～40かごを1連とし、1回の操業に2連使用した。餌は冷凍サバを使用した。かごは東北地方でミズダコ漁業に広く使われている「ダルマかご」と、「ダルマかご落とし口タイプ」（いずれも目合7節）を使用し、入かご率（使用したかご数に対する漁獲されたミズダコの尾数割合）の比較を行った。

また、今年度から小型底びき網漁業の休漁期（6～8月）に、漁業者（石見海域バイかご漁業者）による試験操業が行われたので、操業日誌をもとに解析を行った。

3. 研究結果

(1) 明風による試験操業の結果

5月22日から調査を開始し、6月26日まで計2回試験操業を行った（延べ140かご）。操業水

深は水深130m～150mで、かごを設置した時間は120時間（5日間）であった。漁獲されたミズダコは12個体（総重量83.0kg、平均6.9kg、最大12.1、最小0.9kg）だった。入かご数は2個体から5個体で、入りかご率は6～12%、平均で9.0%であった。かご種類の比較については、ダルマかごが平均11%であったのに対し、同落とし口タイプは平均7%と、今回の調査ではダルマかごのほうが入りかご率が高かった。

(2) 漁業者による試験操業の結果

結果を表1に示す。試験操業には4隻が参加し、操業期間は平成18年6月20日～8月21日まで、計59日（1隻あたり15日）、延べ2,888かご（ダルマかご1,603かご、その他かご1,285かご）であった。入かご率はダルマかごが平均13%、最高41%、最低0%、その他かごでは平均4%、最高20%、最低0%と、ダルマかごの方が優れた漁獲性能を示した。推定漁獲重量は1,741キロ、推定水揚金額は72万2500円（平成18年バイかご漁業のタコ類平均キロ単価415円で換算）であった。これは試験操業参加船の平成18年バイかご漁業によるタコ類総漁獲量3,836キロ、漁獲金額159万1400円の約45%に相当した。

表1 操業結果の概要

| | 合計 | 平均 | 最高 | 最低 | 備考 |
|-----------------|----------|---------------------|-----|-----|---|
| 漁獲個体数 | 255尾 | 63.8尾/隻 | 88尾 | 37尾 | 大：76, 中：40, 小：102, 不明：37 |
| 入かご率 (1航海当り) | ダルマ型 | 13% | 41% | 0% | |
| | その他かご | 4% | 20% | 0% | |
| 重量換算 | 1,741kg | 435kg/隻 | | | 大：12.5kg, 中：7.5kg, 小：3, kg 不明：5kgで換算 |
| 漁獲金額 | 722,500円 | 180,628円 (1隻あたり) | | | 1kg当たり415円で換算 |